

令和8年第2回（6月）富田林市議会定例会

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
1	公明党 代表質問 8番 草尾 勝司 (質問方式) 一問一答	1. 富田林駅からじないまちエリアの活性化について	(1) エリアの活性化に向けたこれまでの取組みについて、昨年6月の代表質問以降、どのような変化や進捗があったのか また、活性化に向けてどのように考えているのか (2) 活性化に向けた庁内体制の整備について
		2. 業務のDX化を見据えたセキュリティと利便性向上のために公用スマートフォンを導入することについて	(1) 業務に使用している公用携帯電話の現状とその管理について (2) 私用携帯電話を業務に使用している現状とその管理について (3) 業務に使用している携帯電話の管理運用規定などについて、本市の考えを聞く (4) 災害時にも活躍する公用スマートフォンの導入を求めて
		3. 本市が発行する無償で作る情報誌等の充実について	(1) これまで本市が発行してきた主な広告付き無償情報誌と、その際の発行部数と手続きはどのようにしてきたのか (2) これまでの経験を踏まえた広告付き無償情報誌の更なる活用について(まずは市民が備えるべき内容に特化した防災ハンドブックの作成から) ～堺市における子育て世代や高齢者向け防災冊子の作成に関しても言及する～
		4. 高槻市で導入された、災害時の断水に迅速に対応できる「貯水機能付き給水管」を本市にも導入する事を求めて（避難所等への給水の現状について聞く）	
		5. 「改正地域公共交通活性化再生法」が成立したことを受け、本市内の「交通空白地域」を解消するため、本市の考え方と現状を問う	
		6. 低出生体重児に対する支援について	(1) 低出生体重児の現状と、本市における支援の状況について (2) 低出生体重児を養育している方へ、搾乳機や母乳パック(保存容器)の購入費を助成することについて（鹿児島県日置市の低出生体重児等支援事業を参考に）
		7. 前立腺がん検診の公費助成について	(1) 本市のがん検診の概要と受診率及び受診率向上に向けた取組みについて (2) 前立腺がん検診の実施について ①前立腺がん検診の実施状況について ②本市において独自に前立腺がん検診を行うことについて
		8. 介護用品紙おむつ給付等の支給事業について	(1) 現在の利用者数と利用者の声について (2) 現行制度と併用した給付券制の導入を求めて（羽曳野市、堺市などの事例を踏まえて）

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
		9. 高齢者の見守りセンサー型の緊急通報システムの導入を求めている	(1) 固定型と携帯型の緊急通報システムの登録者数について (2) 人感センサーなどを使った見守り型の緊急通報システムの導入について（河内長野市など近隣の状況を踏まえて）
		10. 頼れる身寄りがいない高齢者等への終活支援について	(1) 本市でのお一人暮らしの高齢者の現状と相談支援の状況について (2) 頼れる身寄りがいない高齢者等への終活相談パネルの設置と終活支援に対する施策展開について（宮崎県宮崎市・青森県弘前市の事例に言及する。）
		11. 学校校舎や普通教室（学童クラブ専用教室も含む）の非構造部材（窓ガラスも含む）の耐震化の推進について	(1) 学校校舎や普通教室、学童クラブ専用教室の非構造部材耐震化の進捗と今後の耐震化計画について (2) 非構造部材の耐震化のさらなる推進を求めている
		12. 特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する教育について	(1) 特定分野に特異な才能のある児童生徒、いわゆるギフテッドである児童生徒について、各学校はどのようにその存在を把握しているのか。 (2) 各学校では把握した児童生徒に対してどのような支援が行われているのか。 (3) 当該児童生徒への支援に係る現状について教育委員会の考えを聞く。
		13. 教育・文化・スポーツ分野等における全国大会および世界大会等出場者への支援制度（顕彰・奨励金等）の創設について	(1) 本市における、市民が教育、文化、スポーツ等の分野において、全国大会や世界大会へ出場する際の現行の支援・顕彰状況について (2) 近隣自治体（松原市、貝塚市、堺市等）における財政的支援制度を参考に、本市独自の支援制度を創設することについて。また、持続可能な支援を行うため、寄附金を募り、独自の基金の設置を求めることについて
2	とんだばやし未来代表質問 12番 辰巳 真司	1. 認定こども園化計画に関わる諸課題について	(1) 検討会議・ワーキングチームの取り組み状況と課題について ①「教育保育」「施設整備」「総務」の3分野別の課題等について ②保育所側の課題等について ③幼稚園側の課題等について (2) 認定こども園の運用が実施後、跡地等の活用について ①地域で活用するための方策について
	(質問方式) 一問一答	2. 保育料軽減制度における多子カウントについて	(1) 多子カウント制度の考え方について (2) 制度に対する不公平感の認識について (3) 近隣自治体の状況を踏まえた制度の見直しについて (本市の財政負担額についても言及する)

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
		3. 熱中症対策について	(1) 高齢者の熱中症対策について ①本市における過去5年間の熱中症による救急搬送者数の推移と、そのうち65歳以上の高齢者が占める割合について ②高齢者の熱中症の発生リスクについてどのような課題認識を持っているのか、について ③熱中症警戒アラートおよび熱中症特別警戒アラート発表時における高齢者への対応について ④電気料金の高騰等によりエアコンの使用を控える高齢者がいることについて、どのように認識しているのか、について ⑤熱中症リスクの高い独り暮らし高齢者や高齢者のみ世帯について、本市はどのように把握し、どのような啓発活動を実施しているのか、について ⑥高齢者の熱中症対策を進める上で、孤立防止や見守り支援との連携は重要と考える。郵便局や宅配事業者など、日常的に高齢者と接する民間事業者との連携を含めて本市の見解について (2) 子どもたちの熱中症対策について ①本市の小中学校における熱中症対策の現状について ②暑さ指数、いわゆるWBGT（気温だけでなく湿度や日射なども考慮した熱中症予防の指標）を活用した活動判断基準についてはどのようになっているのか、について ③登下校時における熱中症対策について ④学童保育における熱中症対策の取組状況について (3) 中学校部活動における熱中症対策について ①本市中学校における部活動中の熱中症対策の現状について ②暑さ指数（WBGT）を活用した活動中止や活動制限の基準について ③熱中症警戒アラートおよび熱中症特別警戒アラート発表時の対応について ④部活動指導者への研修や緊急時対応の体制について ⑤今後、生徒の安全確保のため、どのように熱中症対策を強化していく考えか、について
		4. 持続可能な交通政策について	(1) 富田林市交通会議における課題について ①彼方上地区および南旭ヶ丘地域における既存タクシーを活用した実証実験について ②レインボーバスの運行経緯と今後のあり方について (2) 4市町村の地域公共交通活性化協議会における課題について ①運行バスの小型化について ②公共交通事業者の支援について a) エンジンオイルが不足している実態について b) 乗務員不足への対応について ③昼間のオンデマンドバス導入の検討について

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
3	自民・笑顔 の会 代表質問 16番 南方 泉	1. 性犯罪の被害をなくすための防犯活動について	(1) 性犯罪に対する市の認識と被害状況や特徴について ①本市は性犯罪をどのような課題として認識しているのか ②過去5年から現在に至るまでの性犯罪の認知件数の推移について、市はどのように把握しているのか ③被害者の年齢層や発生場所、発生時間帯など、把握している特徴はあるのか (2) 被害防止に向けた取組状況および今後の施策の展開について ①本市では現在、性犯罪被害防止のためにどのような啓発活動や防犯対策を実施しているのか ②被害に遭いやすい年齢層をはじめ、市民が危険性を把握し、防犯行動につなげられるよう情報発信を強化すべきと考えるが、今後の施策の展開を問う
		2. 日本版DBS法整備に伴い本市における「性暴力」防止強化について	(1) 本市立中学校教員が逮捕された案件の事後対応について (保護者や生徒に対する説明はあったのか学校内での対応と併せて聞く) (2) 性暴力事件が起こった場合について、学校・福祉・警察との連携はどのようなになっているのか (3) 性犯罪・性暴力被害者支援「ウィズユーおおさか」のような性被害者救済についての仕組みについて、教職員や保護者、生徒に対して説明や心のケアはされているのか (4) 性犯罪事案に関する学校施設の安全管理や防止のための教師への研修を行ってはどうか (堺市立学校園性暴力防止ガイドラインに言及する) (5) 本市すべての女性や子どもにとって安心安全なまちをめざす更なる取り組みについて (堺市セーフシティさかいの事例：公共トイレ他に啓発カードの設置を)
		3. 本市立中学校の修学旅行における平和学習について	(1) 修学旅行の行程について聞く（沖縄方面が多いと推察するが過去3年間の実績） (2) 修学旅行の安全な実施について、アテンドしている業者や旅行社の選定について聞く (3) 修学旅行での平和学習についてどのような内容でおこなわれているのか過去の実績を聞く (外部講師や外部団体の政治的中立性についても聞く)
		4. 通学路における安全対策について	本市小学校周辺道路（通学路）の安全対策について (1) 通学路に関する要望の現状について - 本市における小学校周辺道路、特に通学路や横断歩道等に関する要望についてきく (横断歩道、信号機、歩道設置、路面標示、防護柵、速度規制、カラー舗装など) (2) 改善済み箇所と未改善箇所について - 通学路要望のうち、改善済み件数 未改善件数 継続協議中件数や危険箇所について (3) 今後の通学路安全対策について - 道路への立体的に見える路面標示（減速を促す標示や横断歩道など）の設置を検討して頂きたい

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
		5. 本市の観光振興全般について	(1) 本市は観光を地域振興の一分野としてだけでなく、「稼ぐ産業」としてどのように位置付けているのか 寺内町やサバーファーム等、自然環境などを活用した観光分野への民間投資を呼び込むため、どのようなビジョンを持っているのか (2) 宿泊施設の充実や駐車場（寺内町）の整備など今後どのような展開を考えているのか (3) 明日香村のように、観光を核とした企業誘致や公民連携を推進し、地域経済の活性化や交流人口・関係人口の増加につなげる考えについて (4) TOMIO が産業分野の共創拠点であるならば、観光分野においても事業者、観光協会、商工会、大学、金融機関、民間企業、地域住民等が連携する「観光共創プラットフォーム」の構築を検討してはどうか
4	大阪維新の会 代表質問 2番 酒本 千紘	1. 人口減少対策と外部環境の変化を生かしたまちづくりについて。	(1) 本市の人口減少状況とその対策について。 ①国のこども未来戦略において、若年人口が急激に減少する 2030 年代までに少子化トレンドを反転できなければ、人口減少が食い止められず、持続的な経済成長が困難になると指摘されているが、現在の本市において、少子化トレンドに反転の兆しはあるのか聞く。 ②令和 7 年国勢調査・大阪府の人口及び世帯数(速報)によると、本市は大阪府 43 市町村中、人口増減数は 33 位、人口増減率は 31 位と順位が高くはなかった。今後、この順位を上げていく考えはあるのか、あるとしたらどのような対策を考えているのか見解を聞く。 (2) 南河内基礎自治機能充実強化協議会での広域連携の取組について。 ※人口減少社会を見据え、2 市 2 町 1 村で構成される南河内基礎自治機能充実強化協議会において、具体的な広域連携の議論が進んでいる。同協議会に本市は加入していないところであるが、本市においても広域連携は必要不可欠であり、同協議会で様々な広域連携が進んだ場合、その連携の恩恵を十分に享受できない可能性が考えられる。その懸念について本市はどのように考えるのか見解を聞く。 (3) なにわ筋線の開業予定について。 ※なにわ筋線の開業が 5 年後の 2031 年春に予定されている。同線の開業は特に金剛地区や金剛東地区の発展ならびに人口の増加に寄与する可能性が考えられるが、本市はこの機会をどのように生かしていくのか見解を聞く。 (4) 副首都構想について。 ①大阪府における副首都構想の実現は、本市の発展にも繋がると考えるが見解を聞く。 ②本市は副首都構想の中で、どのような役割を担い、どのようなまちづくりを描くのか見解を聞く。

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
		2. 本市の幼児教育・保育無償化における副食費免除の拡充について。	(1)本市は幼児教育・保育無償化の副食費免除において所得制限を設けているが、その理由を聞く。 (2)本市内に住民票があり、幼稚園・保育所・認定こども園等に入園している3歳から5歳までの園児を対象に、所得制限なく副食費免除を行った場合、現在と比べて歳出額がどのくらい増額となるのか聞く。 (3)本市は過去に市の独自財源のみで学校園の給食無償化に取り組んだことはあるのか聞く。 (4)子育ての初期段階の負担を軽減するため、幼児教育・保育無償化の副食費免除において、市の独自財源で所得制限を撤廃するなど、副食費免除の拡充に取り組んでどうかと考えるが、本市の見解を聞く。 ※河南町の事例について言及する。
		3. 本市における道路法第24条の承認に関する基準について。	(1)本市の歩道において、歩道の切り下げの要望を聞くことがある。市道の工事の承認は道路管理者である本市になるが、本市は地域住民等からの歩道の切り下げの申請が出た場合、どのような基準をもって承認をしているのか聞く。また、その承認基準の設定における法的根拠について聞く。 (2)歩道の切り下げ以外にも、歩道植樹帯の一部舗装化など、部分的な工事を地域住民等が申請した場合、どのような基準をもって承認をしているのか聞く。また、歩道の切り下げとその他の手法において、承認基準の設定に違いはあるのか、加えて、その承認基準の設定における法的根拠について聞く。
		4. 本市内鉄道駅周辺における受動喫煙防止対策について。	(1)本市内各駅周辺における受動喫煙の実態について。 ①本市内各駅周辺における喫煙及び受動喫煙に関する苦情・要望の件数並びに主な内容について聞く。 ②本市は市内各駅周辺における喫煙や受動喫煙の実態をどのように把握しているのか聞く。 (2)受動喫煙防止に向けた本市の課題認識について。 ①駅周辺は通勤・通学者をはじめ多くの市民が利用する公共性の高い空間であるが、喫煙者と非喫煙者の分離及び望まない受動喫煙の防止について、市はどのような課題を認識しているのか聞く。 ②民有地に設置された灰皿や喫煙スペースにより周辺への受動喫煙が発生している場合、土地所有者又は管理者に対して市はどのような働きかけを行うことができるのか聞く。 ※民有地であっても周辺環境への影響がある場合には、市として積極的な働きかけを行うべきと考えるが、市の見解を聞く。 (3)受動喫煙防止対策の強化について。 ①鉄道事業者、駅周辺事業者及び自治会等と連携し、受動喫煙防止や喫煙マナー向上に向けた取り組みを進める考えはあるのかについて聞く。 ②本市内駅周辺における受動喫煙防止及び喫煙マナー向上を目的として、路上喫煙防止条例や受動喫煙防止条例の制定を含めた対策強化について、市の見解を聞く。 ※他自治体の先進事例も踏まえ、条例制定について調査研究を進めてはどうかと考えるが、市の見解を聞く。

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
		5. 避難所運営体制の 充実について。	（1）防災備蓄品の保管と管理について。 ①学校等に分散して配置している備蓄品の保管場所は、どのような考え方で選定しているのか聞く。 ②備蓄品の賞味期限や数量等について、どのような体制で管理しているのか聞く。 ※備蓄品が増加する中、職員の業務負担も大きくなると考えるが、適切な管理体制が確保されているのか聞く。 ③備蓄品の点検や入替えの際に、学校関係者や施設利用者等から意見を聴取する仕組みはあるのか聞く。 ※現場の意見を把握しながら、保管場所や運用方法の改善につなげていくべきと考えるが、市の見解を聞く。 ④明治池中学校では、地域総合拠点「みなよる」で使用している教室内に備蓄品が保管されていることから、活動スペースが手狭になっているとの声を地域の方より聞き及んでいる。このように教育活動や地域活動への影響が生じている場合、保管場所の見直しや備蓄倉庫の整備など個別の状況に応じた対応を検討すべきと考えるが、市の見解を聞く。また、明治池中学校における備蓄品の保管場所について、今後見直しを行う考えはあるのか聞く。 （2）災害時学校利用計画の策定と実効性について。 ①「避難所運営マニュアル」と「災害時学校利用計画」の違い及び、それぞれの役割について聞く。 ※既存の避難所運営マニュアルに加え、災害時学校利用計画を策定する必要性についても併せて聞く。 ②災害時学校利用計画を策定した後、防災訓練や避難所開設訓練等を通じて、どのように実効性を検証していくのか聞く。 ※計画策定が目的ではなく、実際の災害時に機能する計画とするための検証方法について聞く。 ③災害時学校利用計画について、計画策定後も学校関係者や地域住民の意見を反映しながら継続的に見直していく仕組みが必要と考えるが、市の見解を聞く。 ※防災訓練や実際の災害対応で得られた課題を計画へ反映し、継続的な改善を行うべきと考えるが、市の見解を聞く。

令和8年第2回（6月）富田林市議会定例会

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
		6. サバーファームにおける埋設給水管の漏水事案について。	（1）埋設給水管の漏水事案について。 ①令和8年3月28日に発生した埋設給水管の漏水事案の概要及び原因について聞く。 ②事案発生後、市及び指定管理者はどのような対応を行い、来園者への説明や情報提供をどのように行ったのか。また、その過程において市と指定管理者はどのような情報共有及び連携を行ったのか聞く。 ③来園者に影響を与えた事案であるにもかかわらず、本市ウェブサイト等で公表せず、また議会へ報告を行わなかった判断理由について聞く。 ※今回の事案は市民への説明責任の観点から公表すべき事案であったと考えるが、市の見解を聞く。 ④本市において、サバーファームをはじめとする公共施設の給排水設備等の点検及び老朽化対策をどのように行っているのか聞く。 ※今回の事案を踏まえ、どのような再発防止策及び予防保全に取り組んでいくのか聞く （2）市民への説明責任及び来園者対応について。 ①今回の事案を踏まえ、来園者に影響を与える事案が発生した場合の公表基準及び議会への報告基準をどのように考えているのか。また、市民への説明責任及び議会への情報共有のあり方をどのように見直していくのか聞く。 ※市民に対して適切に説明を行うことに加え、議会に対しても適時適切に情報共有を行うことは、市政への信頼を高める上で重要であると考えるが、市の見解を聞く。 ②今後、施設の都合により来園者へ退園をお願いするような事案が発生した場合、入園無料券やサービス券の配布など、来園者への配慮や再来園の促進につながる対応を検討してはどうか考えるが、見解を聞く。
		7. 小学校水泳指導民間委託事業に係る事務手続き及び情報共有について。	（1）保護者向け通知（令和8年度 富田林市水泳指導民間委託実施についてのお知らせ）を行った時点において、委託契約は締結済みであったのか聞く。 （2）契約締結前の段階で保護者へ委託事業者名を通知するに至った経緯及び、保護者への通知を令和8年4月8日に行った理由について聞く。 （3）教育委員会は事務手続き上の不備があったと認識しているのか聞く。 （4）保護者向け通知文の作成に係る決裁過程において、委託契約の締結状況を確認する仕組みはどのようになっていたのか。また、今回の事案を踏まえ、決裁及び確認体制にどのような課題があったと認識しているのか聞く。 （5）今回の事案を踏まえ、契約事務、市民周知及び議会への情報共有のあり方をどのように見直し、再発防止に取り組むのか聞く。

令和8年第2回（6月）富田林市議会定例会

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
5	1 番 伊 東 寛 光 (質問方式) 一問一答	1. 金剛中央公園・多機能複合施設等整備運営事業及びライフサイクルコストと後年度負担の見える化について。	(1) 募集要項・審査基準における成果指標について。 ①募集要項や審査基準において、年間来園者数、屋内こども遊び場の利用者数、施設稼働率、子育て世帯の満足度、イベント開催数、再訪率、金剛地区内外からの利用状況、地域回遊の効果等について、市として最低限求める成果指標や評価の考え方を設定し、明記すべきだと思えるが、市の見解を聞く。 ②上記「①」の指標を、単なる参考項目ではなく、事業者選定後のモニタリング、指定管理者評価、事務事業評価に評価項目として連動させるべきだと思えるが、市の見解を聞く。 (2) モニタリング、事務事業評価、改善の実効性について。 事業者のモニタリング、評価結果の毎年度公表、主要指標の評価項目化、目標値を下回る状態が続いた場合の改善計画や運営内容、指定管理の在り方を見直しについて、市はどのように考えているのか。 (3) ライフサイクルコストと後年度負担の見える化について。 ①整備費、地方債償還額、運営委託料、こども・子育てプラザの直営運営費、修繕費、更新費を含めたライフサイクルコストの全体像を、市民に分かる形で示す予定はあるのか。 ②今後、本市が整備する公共施設についても、計画段階から、整備費だけでなく、維持管理費、運営費、修繕費、更新費等を含めたライフサイクルコストの全体像を市民に分かる形で示す必要があると思えるが、市の見解を聞く。
		2. 市立認定こども園化に向けた12月議会までの工程、財源、受け入れ体制について。	(1) 令和10年4月の開設から逆算しての工程について。 ①令和10年4月開設を前提とする場合、条例改正、補正予算、工事発注、職員配置、組合交渉、保護者説明等は、それぞれどの時期に行うことを想定しているのか。 ②来年4月に市長選挙・市議会議員選挙が予定されており、令和9年度の当初予算が骨格予算となる見込みが高い中で、令和10年4月開設に間に合わせるためには、今年12月議会に関連議案を上程し、議決を得る必要があるのではないかと。 ③12月議会に関連議案を上程する必要がある場合、制度設計、施設整備費、財源見通し、職員の処遇、組合交渉、保護者説明、教育・保育内容の準備等について、いつまでに、どの水準まで具体化して議会に説明するつもりなのか。 ④令和10年4月開設までの工程を一覧化したロードマップを、早期に議会に示すことを求めるが、市の見解を聞く。

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
			（2）施設整備費、財源、後年度の負担について。 ①最低でも10年は6園体制を維持するとの考えを踏まえれば、整備費だけでなく、人件費、維持管理費、修繕費、送迎支援費を含む中長期的な財政見通しを示す必要がある。その際、園別の概算工事費、年度別事業費、国・府補助金の対象範囲、地方債の種類と発行見込み、交付税措置後の実質負担、一般財源負担についても、確定額ではなくその時点の試算であることを明示した上で、前提条件とあわせて示すべきと考えるが、市の見解を聞く。 ②園舎を使用しながら改修するのか、仮設対応を行うのか。工事期間中の安全確保、騒音、園庭利用、給食、お昼寝の時間、送迎の際の動線など、保育環境への影響を抑えるための費用をどのように見込むのか。 （3）職員処遇、資格要件、給与条例の改正について。 ①認定こども園化に伴い、幼稚園教諭と保育士の職務、勤務時間、配置、給与体系、手当、資格要件を、いつまでに整理するのか。 ②保育教諭に必要となる幼稚園教諭免許・保育士資格の併有状況をどのように把握し、資格取得支援や研修をどのように行うのか。 ③大津市で条例案が否決された事例を踏まえ、本市において給与差、手当、現給保障、職種統合、資格要件をどう整理し、条例改正や予算措置が頓挫するリスクをどう回避するのか。 （4）子どもたちを新たな環境で迎えるための、ソフト面の準備について。 ①1号認定児と2号認定児が同じクラスで過ごす場合、生活時間、教育時間、保育時間、給食、お昼寝の時間、降園時間の違い等を踏まえ、1日の流れをいつまでに具体化するのか。 ②幼稚園が培ってきた幼児教育の強みと、保育所が培ってきた養護、生活支援、家庭支援の強みを、どのように融合し、教育課程、全体的な計画、1日の生活の流れ、保護者対応、配慮を要する子どもへの支援、職員間の役割分担にどのように落とし込むのか。 ③幼稚園教諭と保育士の合同研修、相互見学、合同カンファレンス、園内交流を、いつから、どの頻度で実施するのか。 ④現場の職員が日常業務を担いながら、教育・保育内容の検討や交流に参加できる時間を、どのように確保するのか。特に、保育士が幼稚園教育の現場に出向いて交流するのは、保育士の勤務体系を考えるとかなりハードルが高いと思うが、市としてどのように対応するつもりなのか。 ⑤開園時に子どもたちが混乱なく移行できるよう、クラス編成、担任配置、慣らし期間、在園児・保護者への説明を、いつまでに行うのか。
		3. 20歳以上を含むライフコースアプローチによる、筋力トレーニング・有酸素性身体活動・食生活改善を軸とした、全市的な予防医療政策について。	（1）20歳以上、特に本市計画上の成人期である20歳から39歳の段階から、運動習慣、食生活、筋肉量、骨量を守る取組を進め、40歳以降の特定健診や特定保健指導、将来のフレイル予防につなげてはどうか。

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
			(2)「あることと」の新たな事業展開を検討するにあたり、歩数中心の事業にとどめず、筋力トレーニング、体組成測定、食生活改善、健診受診、健康教室参加なども評価し、個人の健康状態の変化を可視化する予防医療型の後継事業として再設計してはどうか。 (3)健康日本21第三次及び健康とんだばやし21が掲げる「自然に健康になれる環境づくり」、いわゆる0次予防の考え方を踏まえ、アスマイル等の既存アプリの活用や、夜間・休日・短時間の教室、事業所単位での参加、民間施設、薬局、医療機関、大学、地域団体等との連携を通じて、生活しているだけで健康に近づけるモデル事業を実施し、参加率、継続率、脱落理由、運動習慣、筋力トレーニングの実施状況、食生活行動、体組成、主観的健康感などを中間成果指標として検証してはどうか。
		4. AI時代における本市の人材戦略及び組織運営について。	(1) AI 時代における本市の将来の組織像について。 ①本市は人口減少、行政需要の複雑化、AI やデジタル技術の進展を踏まえ、10 年後、20 年後にどのような市役所組織を目指しているのか。 ②「①」の将来像を実現するために、今後どのような能力や資質を持った職員が必要になると考えているのか。 (2) AI 時代に求められる職員像及び人材確保について。 ①本市は現在の採用制度及び人材育成制度によって、将来必要となる人材を確保できると考えているのか。 ②AI や DX を推進していくためには、システムを導入するだけでなく、業務改革やデータ活用、仕様書の作成、ベンダーの管理などを担う人材も必要になると考える。本市は、このような人材をどのように確保し、育成するつもりなのか。 (3) AI の利活用により生まれる時間や人員を踏まえた、将来の職員配置及び組織運営について。 ①本市は AI の利活用によって効率化できる業務と、人が担うべき業務をどのように考えているのか。 ②AI の利活用によって生まれた時間や人員を、単なる削減に向けるのか、それとも市民対応、政策立案、地域課題の調整など、人にしかできない業務へ振り向けるのか。これらの考え方を踏まえ、将来の職員配置や組織運営をどのように考えているのか。
		5. AIエージェント及び開発支援型AIを活用した行政実務の改革について。	(1) 生成 AI サービスの利活用の効果測定について。 ①令和 7 年 12 月定例会以降の、生成 AI サービスの利用状況について。 ※利用部署や利用業務、利用頻度、職員アンケートの結果、課題やニーズ等を、どのように把握しているのか。 ②利用文字数や利用回数という「量」だけでなく、職員の負担軽減、文書や説明内容の標準化、問い合わせ対応の効率化など、時間や質の面からも効果測定を行ってはどうか。 (2) 富田林市 DX 戦略における生成 AI、行政実務用 AI、AI エージェントの位置付けについて。 ①富田林市 DX 戦略の改定にあたり、生成 AI、行政実務用 AI、AI エージェント、開発支援型 AI、データ整備、人材育成、ガバナンスを明確に位置付けてはどうか。 ※国における、ガバメント AI「源内」をめぐる動向等についても言及する。

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
			(3)「業務+AI」から「AI+業務」への転換について。 ①AIを使うことを前提に業務の流れを見直す「AI+業務」の視点で、業務改革に取り組んではどうか。 ※AIを前提として、業務フローや規程、マニュアル、FAQや過去の事例の整理、文書管理やデータ形式のあり方等を見直してはどうか。 (4)行政実務用AI及びAIエージェント化に向く業務の棚卸しについて。 ①AI エージェントは、単なるチャットボットではなく、申請内容の確認、規程との照合、不備の確認、計算の補助、資料の検索、審査者の支援など、業務プロセスの一部を支援する仕組みである。AI エージェントに向く、定型的な業務を棚卸ししてはどうか。 (5) 源内 OSS 及び開発支援型 AI の調査・実証について。 ①源内 OSS や行政実務用 AI アプリのテンプレートを調査し、本市の低リスクな業務に活用できないか検討してはどうか。 ②Claude Codeのような開発支援型 AI について、全庁利用ではなく、DX 担当や情報政策部門に限定し、公開情報や匿名化データ、実証専用環境を前提として、データ整理や FAQ の点検、小規模な自動化や AI エージェントの試作、委託前の要件整理等に活用できないか、検討してはどうか。 (6) AI 利活用を推進するための体制について。 ①AI エージェントや行政実務用 AI の活用は、単なるシステム運用ではなく、業務改革、規程の整理、データの整備、職員研修、効果の測定、ガバナンスを横断する「企画業務」であることを踏まえ、現在のデジタル推進室の体制で、AI 利活用を企画・推進・評価する余力はあるのか。 ②各課の業務に詳しい職員とデジタル推進室が連携して、AI エージェント化に向く業務を洗い出す、ワーキンググループや検討チームを設けてはどうか。
		6. 富田林斎場・富田林霊園大規模改修基本計画について。	(1) 利用者が減る中で、霊園整備をこのまま進めて良いのか。 ①斎場・霊園の老朽化対策そのものは必要だと考えるが、富田林霊園の新規使用許可数は平成 27 年度 35 件から令和 7 年度 7 件に減少し、返還数は平成 27 年度 41 件から令和 6 年度 92 件に増加した後、令和 7 年度 69 件に減少している。また、総使用許可件数は平成 27 年度 4,625 件から令和 7 年度 4,281 件に減少している。このような状況の中で、合葬墓整備、植栽再整備、送迎シャトルバス、PFI-RO 方式による長期事業をこのまま進めて良いのか。 富田林霊園について、利用者負担、一般財源による負担、将来負担をどのように考えているのか。

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
			(2) 合葬墓の需要見込みについて。 ①基本計画では、合葬墓について、合葬室 1,500 体、個別安置室 10 年 750 体、20 年 750 体、合計 3,000 体を受け入れる想定とされている。従来型墓地の新規使用許可数が令和 6 年度 7 件まで減少している中で、50 年間で 3,000 体の合葬墓需要を見込む根拠について。 ②令和 7 年度調査では、公営の合葬墓・樹木葬墓地等について「利用したい」が 25.1%である一方、「わからない」が 46.9%となっている。約半数が「わからない」と回答したという不確実性を、需要推計にどのように反映したのか。 ③合葬墓の料金について、即時合葬 5 万円、10 年安置 10 万円、20 年安置 13 万円という試算が示されている。50 年間で 3,000 体を受け入れ、80 年間管理する想定の中、維持管理費、将来の修繕費、需要の下振れリスクを踏まえた場合、この料金設定で十分なのか。 ④需要が 1 割、2 割、3 割下振れした場合、霊園全体の収支や一般財源による負担はどのように変化するのか。このようなリスクをどのように想定し、分析しているのか。 ⑤需要見込みが十分に検証されていないのであれば、合葬墓の整備規模、料金設定、事業収支について再検討すべきではないか。 (3) 市民アンケートと整備方針について。 ①市民アンケートでは、墓地取得時に選択する様式として、令和 7 年では合葬墓が 18.0%、樹木葬墓地が 19.0%と示されている。樹木葬墓地の希望が合葬墓と同程度、むしろわずかに上回っている中で、計画では合葬墓を中心にした理由について。 ②市民ニーズとの整合性を十分に説明できないのであれば、合葬墓中心の整備方針を見直し、樹木葬を含めて再検討すべきではないか。 (4) 水景施設撤去後の再整備と優先すべき内容について。 ①基本計画では、既存水景施設の撤去に 1,680 万円、既存水景施設に替わる植栽の再整備に 1 億 500 万円、合計 1 億 2,180 万円が見込まれている。霊園事業の収支悪化や将来負担が課題となる中で、植栽の再整備まで計上したのは何故か。 ②霊園では、歩道の不陸、根上がり、側溝の劣化など、安全性や墓参環境に関わる課題もある。景観整備よりも、高齢者や障がいのある方が安全に墓参できる歩道・園路の改善を優先すべきではないか。 (5) 送迎シャトルバスと既存墓地の空き区画について ①送迎シャトルバスについて、年 162 万円の運行費で、どの程度の運行日数、便数、ルート、利用者数を想定しているのか。 ②交通利便性を理由とする墓地返還の抑制に、送迎シャトルバスにどの程度の効果があると見込んでいるのか。 ③既存墓地の返還数は平成 27 年度 41 件から令和 6 年度 92 件に増加し、令和 7 年度は 69 件に減ったものの、総使用許可件数は平成 27 年度 4,625 件から令和 7 年度 4,281 件に減少している中で、今後増える空き区画をどのように管理・活用するのか。 ④合葬墓の整備だけでなく、既存区画の再活用、維持管理費の抑制、空き区画の将来的な取り扱いも含めて再検討すべきではないか。

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
			(6) 霊園全体の長期収支と市民への説明責任、霊園部分の再検討について。 ①霊園の管理運営費は年 2,570 万 2,524 円と試算されている。合葬墓単体の収支試算だけではなく、既存墓地の返還増加、管理料収入の減少、施設維持管理費、将来修繕費、送迎シャトルバスを含む運営費、一般財源による負担のリスクを含めた霊園全体の長期収支を示すべきではないか。 ②実施方針の策定や事業者の公募に進む前に、霊園全体の長期収支、需要の下振れを想定した分析、市民アンケートを踏まえた整備方針の見直し、水景施設撤去後の再整備を含む優先順位を再度検討し、市民に分かる形で示すべきではないか。 ③これらの検討が終わるまで、霊園部分について、現在の計画内容のまま実施方針の策定や事業者の公募に進むべきではないと考える。計画の再検討を求めるが、市の見解を聞く。
6	14番 坂口 真紀 (質問方式) 一問一答	1. AI時代に対応した行政基盤の強化と市民サービス向上への取り組みについて	(1) 自治体 DX とセキュリティ対策について ①API 管理体制と外部連携の把握について ②AI・Bot による自動アクセス対策について ③API 直接操作への対策について ④AI 時代を前提とした委託管理について ⑤ゼロトラストと職員の生成 AI 利用ルール、シャドーAI 対策について (2) AI 時代における情報提供と市民対応について ①AI にも伝わる行政情報の見直しについて ※llms.txt schema.org の活用についても聞く ②生成 AI 利用時の周知について ③AI 導入効果の評価指標と時間活用の方角性について (3) 生成 AI・AI エージェント時代における本市の DX 推進方針について
		2. 障がい者雇用支援と今後の方向性について	(1) 障がい者千五百人雇用の目標設定の考え方と目的について ※就労者数のうち雇用契約に基づく就労者数についても聞く。 (2) 就労継続支援 B 型から A 型・一般就労へのステップアップ支援について (3) 企業との連携強化について (4) 就労継続支援 B 型・A 型における就労移行や定着率の成果指標導入について
		3. 「ひとりケアマネ事業所」における現状と事業継続連携体制の導入について	(1) 業務継続困難時における現状の対応把握について ※市内の「ひとりケアマネ事業所」の割合についても言及する。 (2) 大阪府柏原市における事業継続連携体制の事例に対する評価について (3) 本市における連携体制構築への支援について

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
7	15番 京谷 精久 (質問方式) 一問一答	1. 富田林市都市計画道路の見直しとまちづくり連携について聞く	(1) 都市計画道路見直しの考え方と進捗状況、今後のスケジュールについて (2) 実態調査と総合的なまちづくりとの連携について (3) 今後の交通網の検討と既存道路の有効活用について聞く（具体的な路線についても言及のこと）
		2. 富田林霊園に係る定期監査報告を受けた市の見解について聞く	(1) 一般財源を継続的に投入し続ける妥当性と根拠について (2) 監査委員からの具体的な指摘に対して、市の見解について (3) 霊園事業の持続可能性と今後の事業展開について ※改善される面と改善されず積み残す課題等を分けて言及のこと
		3. 現在すばるホールに仮移転している市の部署が新庁舎に移転した後の、当該スペース活用方法について聞く	(1) 市部署移転後の活用方法について、利用者や利用団体、指定管理者、市民などの意見をふまえて検討を行なっているのか、またどのような意見が多いのか (2) 小ホールの利用状況について、直近3年分の利用日数、利用率及び他の施設の利用状況の変化とその要因について。 (3) 改修についての考え方や利用方法、その決定への基本的な考え方と説明時期は (4) 旧銀河の間だけでなく、旧アルデバランやレストラン、ふれあい広場などの活用を検討しなければならない施設が他にもあるが、それらの検討はいつ行い、どのように考えるのか (5) 令和9年度に改修工事を行なうならば今年の10月には改修内容を決めて、令和9年度予算に計上しなければならないが、現在のスケジュールについて聞く
		4. 指定管理者制度のあり方について聞く	(1) 指定管理者選定における現在の評価方法の利点や課題への認識について聞く (2) 令和7年6月議会での質問以降、利用者アンケート調査の導入について現在の取り組み状況について (3) 指定管理者選定において現指定管理者が次期指定管理者に応募した場合の運営実績を選定審査に反映させる仕組みの導入について、現在の状況について
8	3番 岩崎 哲也 (質問方式) 一問一答	1. 大阪市内の就労継続支援A型事業所における不正請求と本市の監督責任について。	(1) これまでの運営指導や加算確認の中で、なぜこのような不正を把握できなかったのか、その原因をどのように分析しているのか、市の見解を聞く。 (2) 今回の不正は、今までのチェック体制の中で何時の段階で気づきなどがあったのか、不正の把握の経緯について、市の見解を聞く。 (3) 本市の財源も支出されていた以上、本市としての監督責任についてどのように認識しているのか、今回の不正金額の回収の用途はあるのか、市の見解を聞く。
		2. きらめき農業塾による担い手育成と新規就農者支援について。	(1) 栽培技術の指導だけでなく、売上や経費、利益計算を含めた農業経営やマネジメントについて、どのように教えているのか、農業で生計を立てていくための経営シミュレーションや所得目標の設定などについても指導されているのか、市の見解を聞く。 (2) 卒業生のうち雇用就農された方々について、現在も継続して農業に従事されている人数は何名でしょうか。その内、市内で営農された方は何名いるのか、市の見解を聞く。

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
			（3）今年度、初めて独立就農者が誕生するとのことですが、独立後の経営安定に向けて、市としてどのような支援を行っていくのか、農地の確保や農業機械・施設の導入、販路確保、営農指導などについて、市の見解を聞く。
9	17番 今城 克久 (質問方式) 一問一答	1. 高齢化に伴う本市の地域公共交通政策について	（1）高齢者における移動の課題に関する状況把握について ①移動に困る高齢者を市はどのように認識しているのか。 ②彼方上地区などの実証実験からどのようなニーズが見えてきたのか。 （2）地域を問わず高齢者が増加する中、交通不便地域の見直しについて ①実際には（バス停まで歩けない、坂道がきつい、タクシーが捕まらない）という高齢者は市街地にも存在する。市はどのように認識しているのか。 （3）地域公共交通政策における福祉的視点について ①介護認定を受けている方や、障がいのある方には、それぞれ法的なサポート制度が用意されています。一方で、「まだ介護保険の認定を受けるほどではないけれど、一人での生活に不安や生きづらさを感じている高齢者の方々」への対応が、実は地域で最も見落とされやすく、かつ切実な課題となっています。このことを市はどのように考えているのか。 ②群馬県高崎市では、先進的な取組み（高齢者巡回タクシー、車いす対応、病院・スーパー巡回など）が行われている。富田林市としても研究を進める考えはないのか。 （4）富田林市地域公共交通計画の目標達成に向けて ①現在は計画のどの段階であるのか。 ②彼方上地区や南旭ヶ丘地区の取組は、これらの目標達成にどのように寄与すると考えているのか。
		2. 中学校全員給食のスタートにあたり、安全・安心な環境を目指して	（1）アレルギー対応食の対応が2学期開始時点で間に合わなかった理由について ①ランチボックスでの提供を決めた時点、令和8年度2学期から開始すると決めた時点で、開始と同時にアレルギー対応しなければならないと考えなかったのはなぜか。 ②アレルギー対応できていると誤解してしまうような説明を議会にしたのはなぜか。 ③2学期から開始するにあたり、現時点で保護者との個別面談などを行いアレルギー対応しなければならないと考えるが、先伸ばしにする理由と根拠の説明を求める。（一定の期間を要するのは当たり前であると理解はしているが。） （2）アレルギー対応に関する保護者への説明責任について ①対象家庭への個別説明についての詳細を聞く。 ②学校長と教育委員会の責任の所在について聞く。 ③保護者からの質問に学校長が答えられない状況、「ご理解ください」としか回答できない状況について、教育委員会としてどう考えているのか説明を求める。 ④質問に各学校が答えられない状況を考えて、今後、保護者からの相談や確認はどこが窓口となるのか示されたい。

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
			(3) アレルギー対応食の内容について 給食提供方式の比較資料には、デリバリー方式について「アレルギー対応可能（数種類）」との記載がある。（→富田林市中学校給食のあり方基本方針(素案) P.7 デリバリー方式のアレルギー対応食 参照） 一方で、現在説明されている対応は卵除去のみとなっている。市の考えているアレルギー対応について市民の皆様、保護者の皆様が分かるような説明を求める (4) 給食運用に関する配膳負担の説明について ①資料には「ランチボックスの配食のため、生徒の配膳下膳の負担及び教職員の配膳指導の負担がほぼ無い」と記載されている。（富田林市中学校給食のあり方基本方針(素案) P.7 デリバリー方式の利点 参照） 一方で、二学期からは汁物配膳のため給食当番が必要となり、エプロン・三角巾・マスクの持参も求められている。負担はあると考えるが、「負担がほぼ無い」と記載した根拠は何か。 ②箸、スプーン、ナフキン、給食当番用エプロン、三角巾等を各家庭で準備することになっている。（→中学校給食の概要について 参照）経済的負担への配慮等はどのように考えているのか聞く。 (5) 給食内容について ①おかわり用ご飯について保護者に対しては1クラス4食分との説明があったと聞くが、その数量設定の根拠について聞く。また議会へ説明しなかった理由も合わせて聞く。 ②不足した場合の対応はどうか。成長期の生徒で量が足りない場合、追加弁当等の持参は認められるのか。 ③冷菜や汁物、デザートを提供について、どの程度提供されるのか。 (6) 全員給食開始前の説明機会について ①保護者へのおたよりは、写真も白黒で給食の内容が全く分からなかったと聞く。丁寧な説明とはほど遠いと思うが、市の見解を問う。 ②保護者が質問や意見を伝える機会が設けられないのはなぜか。 ③小中学校 PTA の方対象の試食会を令和6年10月に実施できた経緯がある。全員給食開始前に現役 PTA の方等を対象に実施するべきだと考えるが、市の見解を問う。（これまでも幾度となく要求してきた。） (7) 議会への説明と保護者への説明に齟齬があることについて、教育委員会の見解を問う。
10	13番 寺尾 千秋 (質問方式) 一問一答	1. イラン戦争による物価高・資材不足の影響を受けている地元企業への直接支援を求めて 2. 総合福祉会館の修繕や補修、備品等の買い替え等について	(1) イラン戦争の影響で営業が困難な事業者の相談窓口の設置と周知が必要だと思うが、市の見解を聞く。 (2) 影響を受けている事業者への直接支援が必要だと思うが、市の見解を聞く。 (1) 現在総合福祉会館では、様々な活動が行われています。施設の設備や備品等の修繕などについて、どのように要望を聞き、どのような計画を立てているのか聞く。

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
			(2) 利用者の方が安心して利用するためには、お聞きした、修繕・補修・買い替えの要望を計画にして、それらを周知することが必要だと考えるが、どの程度のをどのように周知しているのか聞く。 (3) 要望されている修繕等が、実施されるのか、時間を要するのかが分からなくて不安だという声をお聞きしています。利用者の皆さんが希望する修繕等を、市の責任で指定管理者と進めるとともに、修繕等の計画や見通しの周知を工夫する必要があると考えますが、市の見解を聞く。
		3. 公共施設の公的役割を後退させず、市として責任を果たすことについて	(1) 現在、本市の公共施設で指定管理者制度を導入している施設はどこかを聞く。 (2) 市と指定管理者が交わしている業務仕様書に基づいて、施設・設備の修繕等が適切に行われていると考えているのか、市の見解を聞く。 (3) 本市の公共施設において、利用者の声をどのように受け止めているのか、市の見解を聞く。 (4) 本市の公共施設において、「利用者が要望をした後の対応があいまいで、要望が無視されている」、「市民の声が置き去りになっている」、という声をお聞きしています。要望がどこで検討され、いつ、誰によって改善されるのかを、利用者に十分な周知や説明がなされているとお考えなのか、市の見解を聞く。併せて、利用者の要望が無視され、市民の声が置き去りになっているという声がある中で、市として整備が適切に行われていると考えならば、市民と行政とのずれを生じさせている原因は何と考えるのか、市の見解を聞く。 (5) 現場で利用者が「要望が届いているのか分からない」といった場合、市に直接要望を届けられるシステムはあるのか聞く。また、利用者アンケートを市で取り組むべきだと考えるが、アンケートに取り組んだ事例や見通しを併せて聞く。
		4. 熱中症対策について	(1) 小・中学校の学校生活における児童・生徒の熱中症対策について特別教室へのエアコン設置、学校指定の帽子に夏用帽子や日よけ布（ネックガード）の導入、クールネックリングや保冷剤を用いて熱中症対策を行えるよう、学校に冷凍庫の設置、お茶の提供を求めるが、市の見解をお聞かせください。 ※学校への冷凍庫設置について、兵庫県たつの市の事例も踏まえて聞く。 (2) クーリングシェルターの指定拡大と周知方法の充実が必要だと考えるが、市の見解を聞く。併せて、市民が一目見れば分かるような目印を立てることが有効だと考えるが、市の見解を聞く。 (3) 早急な熱中症対策のためと設置された、市民総合体育館の空調設備について、空調利用料の減免制度の拡充を求めるが、市の見解を聞く。併せて、利用料金の負担増により利用回数を減らした団体があるのか聞く。
		5. 子どもたちを取り巻く教育環境について	闇バイトに子どもたちが巻き込まれている報道を受けて、夏休みに入る前に、SNSの危険性を中学生の時から、注意喚起を行う必要があると思うが、市の見解を聞く。

令和8年第2回（6月）富田林市議会定例会

一般質問一覧表

発言 順位	発言通告者	発言の主題	発 言 の 要 旨
		6. こども、職員、保護者が懸念している「認定こども園化」について、現場の声を聞くことを求めています	(1) 現在3つの分野に分けて検討会議が進められているが、職員の給料表については総務部会で議論されていると思います。保育士と幼稚園教諭の給料表について、議題が今年度に入ってからには行われていないが、これまでの議論内容と認識している課題、また、これからの見通しを聞く。 (2) 大津市の幼稚園教諭の給与条例改正案の否決を受けて、本市の現状との比較を聞く。 (3) 職員の給料について、現給保障ではなく、すべての職員が昇給する措置を求めるが、市の見解を聞く。 (4) 給料表を決定する過程で労使合意が必須と考えるが市の見解を聞く。 (5) 施設整備部会について、施設整備を行う上で、通常保育へ最大限の配慮をするべきだと考えるが、市の見解を聞く。工事中に保育室や園庭、給食室が使用できない想定は考えられるのか併せて聞く。
11	9番 山本 剛史 (質問方式) 一問一答	1. 市民会館の充実を求めています	(1) 過去5年間の施設改修の件数及び内容と今後の予定について (2) 施設老朽化に伴う建替えについて本市の見解は (3) 建替えに向けた基本構想の策定を求めています (4) 今後の建替えについては、本市の北部地域の貸館業務や文化・芸術活動の拠点として機能と高齢化に対する健康増進機能充実をはじめ、多世代交流や地域コミュニティー交流などの機能が充実した複合施設建設について本市の見解は (5) 福祉センターの更なる充実を求めています ①喜志の湯の早期再開について、現在の進捗状況と今後の計画について ②介護予防の観点から、エアロバイクやウォーキングマシンなどの運動設備の設置について